を認めない例が多かった.

[結語] IMA の術後血流運搬能は SVG に劣らず、運動負荷時にも有効な効果を期待できる.

19. Buerger 病に対する **PGE**₁ 治療効果判定法としての ²⁰¹Tl シンチグラフィの応用と評価

河中 正裕 石村 順治 末廣美津子 立花 敬三 福地 稔 (兵庫医大・核)

Buerger 病患者 2 例に対し計 3 回 PGE₁ 治療を行い, その治療効果判定法として 201 Tl シンチグラフィとサー モグラフィを比較検討した.

症例 1:38 歳男性. 20年前から喫煙 1日60本. 間歇性跛行で来院. 左総腸骨動脈起始部の閉塞を認めた. PGE₁ 1日120 μg を経静脈的に 1 か月間投与することにより症状改善しチアノーゼも消失した. いったん退院したが再び症状悪化のため再入院. 再度 PGE₁ 治療により改善した. 症例 2:61 歳男性. 15年前から糖尿病治療を受けてきたがコントロール不良であった. 喫煙 1日40本. 足趾チアノーゼのため来院. 空腹時血糖201mg/d/. 両側脛骨動脈の狭細化を認めた. PGE₁1日80μg 点滴静注により症状は改善した.

各治療前後の血流状態の改善につき比較した。サーモグラフィでは治療後血流の改善を認めたが,足趾の血流改善は明らかではなかった。201Tlシンチグラフィは,仰臥位の患者に201Tl111 MBq (3 mCi)を静注し,5分後と3時間後の血流状態を,201Tlの足底部への分布を指標に観察判定した。治療前201Tlの分布は不良であったがPGE1治療により5分後から足趾への201Tl分布の明らかな改善を認めた。PGE1治療前後の足底部6 mm×6 mm あたりの201Tl集積を,胸部への集積に対する比率で検討したところ,いずれも改善していることが確認できた。

足趾の血流の評価には, ²⁰¹Tl シンチグラフィはサー モグラフィよりも有用と考えられた.

20. 一過性全健忘症の IMP-SPECT 所見

上原 三重野正之 橋川 一雄 章 (大阪大・中放) 柏木 徹 小塚 隆弘 木村 和文 (同・バイオ研核) (同・一内) 松本 昌泰 鎌田 武信 田辺 敬貴 西村 健 (同・精神)

一過性全健忘症 (TGA) は、Fisher らにより命名された一過性の記憶障害を中心とする症候群である。しかし TGA 発症の病因は依然不明であり、発症中に脳血流の変化をとらえた報告は1例のみである。今回われわれは、IMP-SPECT 所見により TGA 発症中の脳血流変化をとらえたので報告する。

患者は既往歴に高血圧と高脂血症のある63歳の女性 で、朝突然に同じ質問を何度も繰り返すという状態で発 症し、神経学的所見としては、6桁の数字の復唱が可能 であり、3物品の呼称は正常に行えるが、数分後には呼 称を行った3物品の記銘が全く不能であるという recent memory の障害が認められた。このような記憶障害が8 時間持続し、消失した. われわれは、この患者を Caplan の診断基準に従い TGA と診断した. TGA 発症前後の 検査として、IMP-SPECT, CT, MRI, 脳波検査を施行 した. TGA 発症中に撮影した CT には 異常を認めなか った. TGA 発症後1週間経過した脳波においても異常 を認めなかった。TGA 発症後 1 か月経過した MRI で は左海馬にのみ小梗塞を認めた。しかし MRI で認めら れた左海馬の小梗塞と TGA の関係は、TGA 発症中あ るいは発症直後に MRI が撮影されていないために不明 確である. IMP-SPECT では、TGA 発症中に 両側側頭 葉内側部と両側後頭葉の血流の低下が認められたが, TGA 発症 1 週間後には発症中に血流低下のみられた両 側側頭葉内側部と両側後頭葉部の血流が改善していた. この IMP-SPECT 所見より TGA 発症の原因には、後 大脳動脈により灌流されている両側側頭葉内側部と両側 後頭葉部の一過性虚血が関与していることが示唆された.